

重点的対策実施 1 7 保護林における植生保護柵の維持管理・機能状況等について

【資料 2】

保護林名	森林管理署	植生保護柵設置状況	令和 7 年度 計画及び実施状況 (R7.12月末時点)				保護林モニタリング調査 (植生保護柵内外の植生調査) 実施年度	保護林モニタリング調査結果概要	植生保護柵の機能状況
			巡視		メンテナンス				
			計画	実施状況	計画	実施状況			
1 祖母山・傾山・大崩山周辺	大分	<本谷山～傾山2031,2032か林小班> 総延長：3,505m 設置箇所数：シカネット22箇所 (主に長方形、大きさは様々)	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	○	職員による補修を実施 (年1回程度)	R5	小面積の植生保護柵において破損はなく、柵内にはヒメシャラやブナの幼木が繁茂し、大幅な植生の回復が見られた。植生保護柵内のみで下層植生に回復が見られていることから、植生保護柵における効果が現れていると推察された。一方、大面積の植生保護柵については殆どが破損しており、柵内の植生の回復は見られない状況だった。大規模柵でも保守点検が実施された箇所においては柵内の植生に回復が見られることから、今後も保護柵が破損しなければ、柵内の植生回復につながると推察される。	小面積植生保護柵：有効 大面積植生保護柵：無効
		<障子岳 2074ち、2078ち林小班> 設置箇所数：金属柵1箇所	なし	未実施	—	—	R5	植生保護柵内には保護対象種のウバタケニンジン、ツクシコメツツジ、ウバタケギボウシが健全な状態で生育しており、シカの嗜好植物を含め多様な種が繁茂していた。柵の大きな破損等も確認されず、柵は機能していると判断された。	有効
	宮崎北部	<古祖母山 2071わ林小班> 金属柵 5箇所 (主に50m×25m四方)	なし	未実施	—	—	R5	植生保護柵内にはノリウツギが繁茂し、場所によっては植被率100%近く繁茂している状況が確認されており、大幅な植生の回復が見られた。破損箇所は確認されず柵は機能していると判断された。	有効
2 白髪岳	熊本南部	総延長：24,280m 設置箇所数：シカネット245箇所 (主に25m四方)	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	○	請負事業者による補修を実施中	R5	小面積の柵内にはスズタケが繁茂し、植被率100%近く繁茂している状況が確認されており、大幅な植生の回復が見られた。一方、大面積の植生保護柵は殆どが破損しており、柵内の植生の回復は見られなかった。小面積の植生保護柵において破損はなく、保護柵内のみで下層植生に回復が見られていることから、植生保護柵における効果が現れていると推察される。大規模柵でも保守点検が実施された箇所においては柵内の植生に回復が見られることから、今後も保護柵が破損しなければ、柵内の植生回復につながると推察される。	小面積植生保護柵：有効 大面積植生保護柵：無効
3 鬼の目山	宮崎北部	総延長：6,417m 設置箇所数：シカネット28箇所、金属柵2箇所 (25~50m四方の四角形を中心に様々な形状)	○	臨時雇用による巡視を実施 (5日間)	○	臨時雇用による補修を実施	R9実施予定	—	—
4 霧島山	都城	<霧島国有林226林班> 総延長：239m 設置箇所数：シカネット1箇所	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	なし	破損等が確認されなかったため未実施	R6	植生保護柵は倒木や落枝、土砂堆積などで破損し、柵内の植生の回復は見られず、保護柵としての機能を果たしていないと判断された。(R6年度中に補修済み)	無効
		<難守国有林2094林班> 総延長：25m 設置箇所数：シカネット1箇所	○	新燃岳の火山活動の影響で入林できず未実施	—	—	R6	植生保護柵の破損は無く、保護対象種であるノカイドウの健全な生育が確認された。ミヤマキリシマが保護柵の周囲に近づけないほど繁茂しており、今後、万が一保護柵が破損した場合でも、ミヤマキリシマが周囲を覆っている限りは、ノカイドウへの被害は生じにくいと考えられる。	有効
		<満谷国有林3055林班> ・平成21年度設置 総延長：200m 設置箇所数：シカネット4箇所	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	なし	破損等が確認されなかったため未実施	R6	植生保護柵の破損等は確認されず保護柵内の植生の回復が見られた。保護柵内のみで種多様性が見られることから、保護柵における効果が現れていると推察される。	有効
		・平成23年度設置 総延長：250m 設置箇所数：シカネット1箇所	○	えびの高原硫黄岳噴気の影響で道路通行止めのため未実施	—	—	R6	植生保護柵内の植生は繁茂しており、回復が見られたものの、倒木やかかり木により植生保護柵が破損していた。今後も保護柵が破損しなければ、柵内の植生回復につながると推察される。(一部補修済み)	無効
5 英彦山モミ等遺伝資源	福岡	総延長：96m 設置箇所数：シカネット2箇所	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	なし	破損等が確認されなかったため未実施	R10実施予定	—	—
6 犬ヶ岳ブナ等遺伝資源	福岡	総延長：128m 設置箇所数：シカネット5箇所 (4m四方の小規模)	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	なし	破損等が確認されなかったため未実施	R5	大幅な植生の回復は見られていないものの、植生保護柵内外で植生の回復に違いが認められた。植生保護柵に破損はなく、植生保護柵内のみで下層植生に回復が見られていることから、植生保護柵における効果が現れていると推察される。	有効

重点的対策実施 1 7 保護林における植生保護柵の維持管理・機能状況等について

【資料 2】

保護林名	森林管理署	植生保護柵設置状況	令和 7 年度 計画及び実施状況 (R7.12月末時点)				保護林モニタリング調査 (植生保護柵内外の植生調査) 実施年度	保護林モニタリング調査結果概要	植生保護柵の機能状況
			巡視		メンテナンス				
			計画	実施状況	計画	実施状況			
7 対馬スダジイ等 遺産資源	長崎	総延長：1,841m 設置箇所数：シカネット10箇所 (25m、50m四方)	○	職員による巡視を実施 (2か月に1回程度)	○	巡視の際に適宜実施	R5	植生の回復が見られた箇所もあったが、多くの箇所では、植生保護柵内外とも、シカの嗜好植物であるイヌガシやシロダモ等が優占している状況であった。継続したシカの植生被害により埋土種子がすでにシカの嗜好植物が優占する状況となっている可能性もあるが、スダジイやイスノキ、アカガシ等の高木層構成種の実生も確認された。したがって、今後も定期的な保守点検を実施し、植生保護柵の破損を防止すれば、周囲からの種子供給が行われることにより保護柵内の植生回復につながると推察される。	一部有効 その他無効
8 内大臣ゴイシツ バメシジミ	熊本	総延長：171m 設置箇所数：金属柵2箇所 (線状)	○	巡視等業務委託において巡視を18日間実施。シシラン開花・ゴイシツバメシジミ活動時期 (5月～10月ごろまで) に、週1日程度森林官による巡視を実施。あわせて、林道確認や他の業務時に、2週に1回、もしくは月1回程度実施。	なし	破損等が確認されなかったため未実施	R10実施予定	—	—
9 市房モミ等	熊本南部	総延長：6,000m 設置箇所数：シカネット60箇所 (主に25m四方)	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	○	請負事業者による補修を実施中	R6	平成26年度設置20箇所中10箇所、平成27年度設置20箇所中9箇所、平成28年度設置20箇所中3箇所植生保護柵の破損が確認され、植生の回復が見られたのは平成26年度設置20箇所中2箇所、平成27年度設置20箇所中4箇所、平成28年度設置20箇所中6箇所にとどまった。 継続したシカの植生被害により、すでにシカの嗜好植物であるアセビが優占する状況となっている植生保護柵が大半を占めている。しかし、ブナ、ミズメ、ヒメシャラ、アサガラ、コハウチワカエデ、イヌシデ、アオダモ、コミネカエデ等の高木層構成種の実生から稚樹が生育する植生保護柵も確認された。一部の植生保護柵では低木層植被率100%近くまで植生が回復し、更に植生が繁茂した状況となっており、植生保護柵内外で明らかな植生の違いが確認された。したがって、今後も定期的な保守点検を実施し、植生保護柵の破損を防止すれば、周囲からの種子供給が行われることにより保護柵内の植生回復につながると推察される。	平成26年度設置20箇所中 2箇所有効、18箇所無効 平成27年度設置20箇所中 4箇所有効、16箇所無効 平成28年度設置20箇所中 6箇所有効、14箇所無効
10 市房ゴイシツバ メシジミ	熊本南部	総延長：14,266m 設置箇所数：木製柵20箇所 (ほぼ全域に多数区画による柵設置)	○	職員による定期的な巡視を実施 (シシラン養生小屋管理等のため)	なし	破損等は確認されたものの未実施 ※新たな柵設置について検討中	R11実施予定	—	—
11 綾	宮崎	総延長：438m 設置箇所数：シカネット4箇所 (四角形2箇所と四角に近い多角形2箇所)	なし	未実施	—	—	R7	令和6年度に設置された2箇所の植生保護柵内では、植生の回復は僅かであり、回復初期と考えられる。ホソバタブ、ツブラジイ、ヒメユズリハの実生や希少種のムヨウラン属、キリシマシャクジョウが確認されたが、アオキの回復は見られず、植被率は低木層及び草本層ともに低かった。当植生保護柵に破損はないことから、今後も破損がない状態が保たれば、継続して植生の回復につながると考えられる。 平成23年度に設置された2箇所の植生保護柵は、どちらも破損が認められた。特に総延長が255.2mにも及ぶ大規模柵であるA柵は、支柱が折れネットが倒伏しており、シカが植生保護柵内に侵入可能な状況で、植生保護柵の効果は認められなかった。植生保護柵内の植生の回復が認められたのはB柵の斜面上部の局所的であった。ただし、高木層構成樹種のツブラジイの稚樹がまとまって確認された他、保護対象種のキリシマシャクジョウも確認されたことから、植生保護柵の効果が認められた。	令和6年度設置2箇所中 2箇所無効 平成23年度設置2箇所中 1箇所有効、1箇所無効
12 大森岳	宮崎	総延長：916m 設置箇所数：シカネット1箇所 (線状)	なし	未実施	—	—	R8実施予定	—	—

重点的対策実施 1 7 保護林における植生保護柵の維持管理・機能状況等について

【資料 2】

保護林名	森林管理署	植生保護柵設置状況	令和 7 年度 計画及び実施状況 (R7.12月末時点)				保護林モニタリング調査 (植生保護柵内外の植生調査) 実施年度	保護林モニタリング調査結果概要	植生保護柵の機能状況
			巡視		メンテナンス				
			計画	実施状況	計画	実施状況			
13 御岳ツシマヤマネコ	長崎		—	—	—	—	(参考:シカ被害状況 (R5年度保護林モニタリング調査結果より抜粋)) 常緑樹林のため本来林床に生育する植物種が少ないと推察されるが、林床照度の高い所でも植生率は低く、ギャップ下では、シカの嗜好植物であるイヌガシが優占している状況で、種構成に偏りが見られた。	—	
14 内大臣モミ等	熊本	奥地にありアクセスが困難、急斜面等の理由により未設置	—	—	—	—	(参考:シカ被害状況 (R4年度保護林モニタリング調査結果より抜粋)) 高木層においてシカによる植生被害は確認されていないものの、下層植生は貧弱で林内の見通しがよく、過年度に引き続きシカによる下層植生への被害が顕著な状況。	—	
15 市房ツガ等遺伝資源	熊本南部		—	—	—	—	(参考:シカ被害状況 (R6年度保護林モニタリング調査結果より抜粋)) 高木層においてシカによる植生被害は確認されていないものの、下層植生はシカの嗜好植物が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となっており、過年度に引き続きシカによる下層植生への被害が顕著な状況。	—	
16 久木野アカガシ等遺伝資源	熊本南部	総延長:200m 設置箇所数:シカネット4箇所 (12.5m四方)	なし	未実施	—	—	R7 植生保護柵内でイチイガシとホソバタブの実生が確認されたが、アオキの回復は見られず、植生率は低木層及び草本層ともに低かった。柵内の植生の回復はほとんど見られず、4箇所の保護柵すべてで破損が見られた。ネット高が高さ1mほどと低く、シカが保護柵内に侵入可能な状況となっており、植生保護柵の効果は認められなかった。	無効	
17 権現岳シオジ等	大分西部	総延長:50m 設置箇所数:シカネット1箇所 (12.5m四方)	○	職員による巡視を実施 (年1回程度)	なし	破損等が確認されなかったため未実施	R7 植生保護柵内の植生は、柵外と比較して大きな違いは認められなかった。過年度よりシカの被害は軽微であり、現在もシカの植生被害が深刻化していないため、保護柵内外での違いは生じていないものと考えられる。なお、保護柵内では、柵設置前には確認されなかったシオジの実生が新たに確認された。	有効	